セブ島に学ぶ

＊9＊

報告者　国際地域学科2年　横尾　真純
東洋大国際地域学部研修から

充実した2週間

地元学生の支援に感謝

笑顔で出迎え

私は、フィリピン大セブ校の学生さんたちとの交流について紹介したいと思います。学生さんたちは、空港に着いたばかりで、周囲の状況も分からず戸惑っていた私たちを温かく笑顔で迎え、バナナの葉で作った帽子をプレゼントしてくれました。移動中のバスの中でも絶えず話しかけてくれたので、すぐに打ち解けることができました。

学生さんたちはボランティアとして、いつも私たちの近くにいて、積極的に交流を図ってくれました。私たちが何を言いたいのか理解しようと、とても熱心でした。日本に興味を持っている学生さんが多く、英語の文章を一緒に日本語に訳しながら、交流を深めました。セブの市内観光の際も、訪れた場所の歴史的背景や、展示品の詳細を丁寧に教えてくれました。

バランガイ・ルスでのフィールドワークでも、住民の声を私たちに伝える重要な役割を担い、私たちが聞きたい情報をしっかりと聞き取ってくれました。最後のプレゼンテーションの準備でも、英語の文法や表現についてアドバイスしてくれました。おかげで、すべてのグループが無事にプレゼンテーションを完成させ、発表することができました。

再会を約束

私が特に仲良くなった2人を紹介したいと思います。まず、チャールズです。少し恥ずかしがり屋ですが、いつも楽しそうに私たちに話しかけてくれて、笑わせてくれました。彼は日本語の勉強をしていて、時々話の内容が分かると「今の分かりました」とうれしそうに言っていました。

次に、アーミーを紹介します。彼女は、講義の前やフィールドワークの際に、私たちのためにさまざまな準備をしてくれました。常に私たちの行動を見守り、サポートしてくれました。帰国後は、一番頻繁にメールのやりとりをしています。

私たちがセブで過ごした2週間は、彼らのおかげでとても充実したものになりました。日本に帰るときは非常につらかったですが、再会を約束して、笑顔で別れました。

横尾真純さん（左）とアーミーさん

マゼラン・クロスでの記念写真。右がチャールズさん

フィリピン大セブ校
アーミー（Maria Armie Sheila B.Garde）

日本文化 学べた

新しい友達増え、楽しく

「たくさんのことを得られるからよ」。マフィンは、彼女がなぜボランティアをするのか聞かれると、こう答えました。2008年9月に3度目を迎えたこのフィリピン大セブ校と東洋大のワークショップには、たくさんのフィリピン人学生がボランティアとして参加しました。

同じ考え方

東洋大の19人は、コミュニティー開発と都市貧困について学ぶため、セブ市を訪れました。私たちは、一緒に歴史遺産やボホール島の観光地を訪れ、バランガイ・ルスでの調査やプレゼンテーションの準備もしました。「2週間という短い間だけれど、日本の学生たちは驚くほど、私たちフィリピン人と考え方が同じなの。だから、一緒に頑張りましょう」とマフィンは言っていました。

講義やコミュニティーでの活動の合間、私たちは東洋大の学生たちと学校、家族、好きなものについて話をしたり、一緒にゲームをしたり、冗談を言い合ったり、時には子島進准教授も一緒になって「バナナダンス」をしたりして過ごしました。私たちはセブアノ語を教え、彼らは私たちに日本語を教えてくれました。一緒にショッピングモールに行ったり、ビデオケ（カラオケ）に行ったり、夕食を食べたりもしました。

彼女もその1人です。ボランティアのほとんどは、前2回のワークショップにもボランティアとして参加しました。前回と同様に、今年も文化交流と新しい友達ができることを楽しみに参加したのです。

学生さんたちと過ごした日々を忘れず、これからも交流を続けていきたいと思っています。

いつも明るいセブ校ボランティアの人たち

「言葉の壁はあるけれど、なんとかやっていけるわ」。フィオナは言いました。私もそう思いました。東洋大の学生たちはフレンドリーで、よく話します。自分の気持ちを英語で表現するのが難しいと感じていた学生もいたようですが、私たちとコミュニケーションを図ろうと努力していました。

いつか日本へ

彼らと時間を共有することで、授業や課題提出などに支障もありましたが、それでも私たちはとても楽しく過ごせました。東洋大の学生たちだけでなく、今まで知らなかったセブ校の学生とも、ボランティアを通して友達になりました。

「もちろん、私は来年も、卒業しても、たとえ困難があっても、またボランティアとして参加するわ。だってこのワークショップから、いつも私はたくさんのことを得られるから」。ジョイ・エバも楽しそうに言っています。

東洋大の学生たちと一緒に過ごして、日本文化についても多くのことを学びました。いつか日本を観光したり、東洋大を訪れたりできることを楽しみにしています。

（アーミー／横尾訳）